

平成31年度 学校評価（教職員）結果一覧

◎全て「学校としてどうだったか」という視点で評価する。

[A：当てはまる B：やや当てはまる C：あまり当てはまらない D：当てはまらない]

- 努力事項1：一人一人の児童生徒の教育的ニーズに応じた学習指導の充実
 努力事項2：教職員の指導力
 努力事項3：児童生徒の「安心・安全」
 努力事項4：センター的機能の充実
 努力事項5：チーム光明

区分	No.	項目	関連する努力事項	人数	A	B	C	D
				%				
A 学校運営関係	1	学校教育目標は、児童生徒の実態に照らして適切である。		160	133	26	1	0
				100%	83%	16%	1%	0%
	2	目指す児童生徒像、指導の重点は適切である。		160	127	32	1	0
				100%	79%	20%	1%	0%
	3	目指す児童生徒像、指導の重点の具現化のための施策等を、職員間で共通理解しながら実施している。		160	72	82	6	0
				100%	45%	51%	4%	0%
	4	学校経営の方針は、本校の教育活動、教職員の体制、社会や地域、保護者の状況等に照らして適切である。		160	104	55	1	0
				100%	65%	34%	1%	0%
	5	本年度の努力事項の具現化のための施策等を、職員間で共通理解しながら実施している。	全般	159	66	86	7	0
100%				42%	54%	4%	0%	
6	学部間の連携を図りながらより一体感のある学校作りに努めている。	5	160	50	99	11	0	
			100%	31%	62%	7%	0%	
7	服務規律についての意識を高め、不祥事発生の防止に努めている。	5	160	80	74	5	1	
			100%	50%	46%	3%	1%	
8	学期末の反省や学校評価の結果を、学校運営の改善に生かしている。		160	59	91	10	0	
			100%	37%	57%	6%	0%	
9	不審者、事故、災害等、緊急事態発生時の対応を、共通理解を図りながら、有事に備えている。	3	160	114	41	4	1	
			100%	71%	26%	3%	1%	
B 学部・学年・学級	11	児童生徒の実態にあった指導の充実に努めている。	1	158	90	60	8	0
				100%	57%	38%	5%	0%
	12	教育課程の編成に当たり、小学部・中学部・高等部の系統性を意識している。	1	159	64	86	9	0
				100%	40%	54%	6%	0%
	13	学習・生活環境づくりを創意・工夫し、効果的な学習・生活環境の提供に努めている。	1	159	76	77	5	1
				100%	48%	48%	3%	1%
14	常に危機意識(生命・安全など)をもって児童生徒の対応をしている。	3	159	106	53	0	0	
			100%	67%	33%	0%	0%	
15	障害の特性を把握し、共通理解を図りながら指導内容や指導法の改善に努めている。	1, 2	159	84	67	8	0	
			100%	53%	42%	5%	0%	
16	児童生徒の実態に即した「個別的教育支援計画」「個別の指導計画」を作成し、それに基づいた指導に努めている。	1, 2	158	96	60	2	0	
			100%	61%	38%	1%	0%	
C 学習指導	18	体験的・実的な活動を通して、自ら学ぶ意欲や主体的に行動できる力を育てている。	1	159	80	78	1	0
				100%	50%	49%	1%	0%
	19	学級担任間、TT間の打合せや調整等を事前に行っている。	2	158	100	53	5	0
100%				63%	34%	3%	0%	
20	教材・教具の開発やその効果的な活用に努めている。	2	158	74	81	3	0	
			100%	47%	51%	2%	0%	
D 活動別	22	学校・学部行事等の内容は、児童生徒の発達段階を踏まえて、適切に立案し実施されている。	1	158	67	83	8	0
				100%	42%	53%	5%	0%
	23	学校・学部行事等の設定に当たっては、時期や系統性について各学部が連携し、適切に配慮している。	1	157	65	84	8	0
100%				41%	54%	5%	0%	

E 保護者との連携	25	保護者の思いや願い等を、指導に生かすように工夫している。	1	159	110	48	1	0
				100%	69%	30%	1%	0%
	26	授業参観や学校行事を通して、家庭や保護者等との連携を図るように努めている。	1	160	118	40	2	0
				100%	74%	25%	1%	0%
27	連絡帳や通信表を、児童生徒の様子や教育の成果等の情報交換に有効に活用している。	1	158	120	37	1	0	
			100%	76%	23%	1%	0%	
28	P T A活動を理解し、支援するように努めている。		160	81	73	5	1	
			100%	51%	46%	3%	1%	
F 開かれた学校	30	保護者や地域の小・中学校に授業を積極的に公開し、外部の意見を指導や支援の改善に役立てている。	4	158	77	75	6	0
				100%	49%	47%	4%	0%
	31	教育・福祉・労働・医療機関と連携協力をしている。	4	159	92	65	2	0
				100%	58%	41%	1%	0%
	32	校内外の教育的ニーズに対応した教育相談活動を実施している。	4	159	88	66	5	0
100%				55%	42%	3%	0%	
33	地域の人材を活用した教育活動を積極的に展開している。		159	46	90	23	0	
			100%	29%	57%	14%	0%	
34	ホームページの内容は適切であり、本校の教育及び特別支援教育の理解啓発に役立っている。	4	159	83	71	3	2	
			100%	52%	45%	2%	1%	
G 現職教育	36	校内研修の実施回数や内容は、適切である。	2	157	64	82	10	1
				100%	41%	52%	6%	1%
37	校内研修は教員の資質向上に役立っている。	2	157	81	67	6	3	
			100%	52%	43%	4%	2%	
H 研究	39	全校研究主題に基づいて、研究に主体的に取り組んでいる。	2	155	59	86	8	2
				100%	38%	55%	5%	1%
	40	校内研究に取り組むことによって、教師の学び合いが進み、指導力の向上に役立っている。	2	157	76	75	4	2
100%				48%	48%	3%	1%	
41	校内研究に取り組むことによって、授業や指導の中で児童生徒の変容が見られる。	2	157	67	81	7	2	
			100%	43%	52%	4%	1%	
I 地域交流	43	近隣の学校や地域に対して、本校の教育・特別支援教育への理解啓発に努めている。	4	158	82	73	3	0
				100%	52%	46%	2%	0%
	44	交流及び共同学習や地域間交流活動で、児童生徒は充実した活動をしている。	1	158	81	75	2	0
100%				51%	47%	1%	0%	
45	居住地校学習推進事業は、相手校と連携しながら効果的に行われている。	1	159	78	79	1	1	
			100%	49%	50%	1%	1%	
J 進路指導	47	児童生徒の将来の社会参加と自立、豊かな生活の実現（キャリア教育）を意識しながら、進路学習の充実を図っている。	1	158	78	77	3	0
				100%	49%	49%	2%	0%
	48	進路担当や学部所属の進路部員と必要に応じて連携し、児童生徒一人一人の発達段階に応じた進路指導を展開している。	1	158	85	70	3	0
100%				54%	44%	2%	0%	
49	保護者や教員に対し、進路等に関する情報を必要に応じて適切に提供している。	5	159	93	63	3	0	
			100%	58%	40%	2%	0%	
K 生徒指導	51	児童生徒に対する理解を深め、実態に応じた生徒指導に努めている。	1	159	105	54	0	0
				100%	66%	34%	0%	0%
	52	いじめ問題対策の方針や指導計画を明確にしている。	3	159	87	70	2	0
				100%	55%	44%	1%	0%
	53	職員間の共通理解を図り、事故、事件、いじめを未然に防ぐ指導を行っている。	3, 5	159	93	64	2	0
100%				58%	40%	1%	0%	
54	いじめや問題行動が生じた際に学校全体で組織的に迅速に対応する体制が整備され機能している。	3	159	89	67	2	1	
			100%	56%	42%	1%	1%	
55	保護者・関係諸機関と協力し、指導に努めている。		158	110	48	0	0	
			100%	70%	30%	0%	0%	

L 安全指導	57	様々な非常事態を想定し、実効性ある危機管理・対応マニュアルを整備している。	3	160	110	46	4	0
				100%	69%	29%	3%	0%
	58	実際の非常事態を想定した訓練（防火、防災、引き渡し訓練等）を実施している。	3	160	107	38	15	0
				100%	67%	24%	9%	0%
59	施設設備の安全点検及び補修等を適切に行っている。	3	159	106	52	1	0	
			100%	67%	33%	1%	0%	
60	東日本大震災を踏まえ、本校の危機管理・対応の体制を点検し、必要な改善等を行っている。	3	158	98	58	2	0	
			100%	62%	37%	1%	0%	
M バス学	62	児童生徒の実態を踏まえ、通学バスが適切に運行されている。	3	158	104	53	1	0
				100%	66%	34%	1%	0%
63	学校、保護者、委託業者との間の連絡・連携がなされている。	3	158	90	65	2	1	
			100%	57%	41%	1%	1%	
N 保健指導	65	児童生徒の病気や怪我に対して早期に発見して、適切な処置をしている。	3	159	120	38	1	0
				100%	75%	24%	1%	0%
	66	児童生徒の実態や発達段階を踏まえ、家庭との連絡を密にしながら児童生徒の健康管理を行っている。	3	159	121	38	0	0
100%				76%	24%	0%	0%	
67	衛生面、感染症等、保健指導に関する情報や資料を提供している。	5	159	114	43	0	2	
			100%	72%	27%	0%	1%	
O 給食指導	69	衛生面や安全面に配慮し、児童生徒の実態に応じた食事指導を適切に行っている。	2, 3	159	113	45	1	0
				100%	71%	28%	1%	0%
	70	児童生徒の実態に応じた献立や調理方法が工夫されている。	3	158	110	46	2	0
100%				70%	29%	1%	0%	
71	給食週間、給食だより、給食参観等で給食に関する啓発に努めている。	5	159	116	43	0	0	
			100%	73%	27%	0%	0%	
P 図書	73	児童生徒の実態に合わせて図書室を有効に活用している。	1	157	67	76	14	0
				100%	43%	48%	9%	0%
74	掲示板は、掲示の仕方を工夫し有効に活用している。	5	159	86	71	2	0	
			100%	54%	45%	1%	0%	
Q 情報	76	ネットワークや機器類に不具合があったときの対応は適切である。	2	159	100	56	2	1
				100%	63%	35%	1%	1%
	77	ネットワークを業務の効率化に役立てている。	5	160	88	67	4	1
100%				55%	42%	3%	1%	
78	ICT機器を活用した児童生徒への教育支援を適切に行っている。	2	158	65	86	5	2	
			100%	41%	54%	3%	1%	
R 情報セキュリティ	80	個人情報を含む電子データの管理及び保存を適切に行っている。	2	160	95	63	2	0
				100%	59%	39%	1%	0%
	81	電子データを校外へ持ち出す際の対応（パスワード設定や管理職への申し出等）を適切に行っている。	2	160	97	60	3	0
100%				61%	38%	2%	0%	
82	紙媒体での校内文書の管理を適切に行っている。	2	159	101	55	3	0	
			100%	64%	35%	2%	0%	

平成31年度 学校評価に関する保護者アンケート結果一覧

【A：当てはまる B：やや当てはまる C：あまり当てはまらない D：当てはまらない】

※全員がすべての項目に回答いただいているわけではないので、回答人数を示しております。

区分	No.	項目	回答人数	A	B	C	D
A 学校全体	1	教職員は、お子さんの指導に日々積極的に取り組んでいる。	199	155 78%	42 21%	2 1%	0 0%
	2	施設・設備は、お子さんが快適に安全に学校生活が送れるように整備されている。	198	106 54%	73 37%	16 8%	3 2%
	3	地域で開く作品展、各種おたより、ホームページ等は、学校やお子さんの様子を紹介するのに役立っている。	199	111 56%	84 42%	4 2%	0 0%
	4	授業や行事を参観する機会や担任と話し合う機会が、適切に設けられている。	199	138 69%	55 28%	5 3%	1 1%
	5	学校は、保護者の願い・意見・要望に耳を傾け、改善に努めている。	199	115 58%	66 33%	15 8%	3 2%
	6	お子さんは、楽しく充実した学校生活を過ごしている。	199	159 80%	34 17%	6 3%	0 0%
B 学習活動	7	教職員は、お子さんの実態に応じた指導の工夫をしている。	199	141 71%	51 26%	6 3%	1 1%
	8	学校行事は、お子さんの実態や関心に配慮した内容であり、日程も無理のないものとなっている。	199	141 71%	50 25%	6 3%	2 1%
	9	近隣の学校や地域との交流は、計画的に行われている。	196	129 66%	57 29%	10 5%	0 0%
C 教師と保護者の連携	10	教職員は、保護者との連絡を適切に行い、必要に応じて迅速に対応している。	199	145 73%	51 26%	3 2%	0 0%
	11	「個別の教育支援計画」は教職員と保護者が話し合っ作られ、支援の経過や成果が共有されている。	199	157 79%	39 20%	2 1%	1 1%
	12	連絡帳や通信表は、お子さんの学習の様子や成果等の情報交換に有効に活用されている。	199	156 78%	39 20%	4 2%	0 0%
	13	教職員は、PTA活動について理解し、保護者と協力するように努めている。	198	112 57%	70 35%	13 7%	3 2%
D 給食指導	14	給食は、お子さんの実態等に配慮したものとなっている。	194	147 76%	38 20%	7 4%	2 1%
	15	給食だよりや給食参観など、給食に関する情報提供が適切に行われている。	195	158 81%	35 18%	2 1%	0 0%
E 生徒安全・指導	16	大地震や事故等の緊急事態を想定し、保護者に示している対応の方法は、分かりやすいものとなっている。	196	133 68%	59 30%	4 2%	0 0%
	17	通学バスは、安全・適切に運行されている。 (通学バス利用者が回答してください。)	150	94 63%	48 32%	6 4%	2 1%
	18	お子さんに学校内外の生活で問題が起こったとき、教職員は適切に対応している。	194	133 69%	52 27%	7 4%	2 1%
F 保健指導	19	お子さんに急な発熱やけがなどが起きたとき、教職員はお子さんの健康状態について把握し適切に対応している。	196	157 80%	36 18%	3 2%	0 0%
	20	お子さんの健康について気になることや感じていることを教職員に相談しやすい。	197	140 71%	47 24%	9 5%	1 1%
G 指導・進路	21	教職員は、お子さんの将来について、本人や保護者の意見等を受け止めた指導を行っている。	197	133 68%	52 26%	11 6%	1 1%
	22	進路等に関する情報や、進路に関する学習についての情報が、適切に提供されている。	197	127 64%	58 29%	11 6%	1 1%
H その他	23	学校は、個人情報の扱いに十分配慮している。	196	117 60%	68 35%	10 5%	1 1%
	24	教職員による保護者への対応及び電話での受け答えは丁寧である。	199	170 85%	25 13%	4 2%	0 0%

【課題に対する対応策の検討内容】

(1) 学部間・職員間の連携と児童生徒への指導に関すること

学部間、職員間の連携について課題が挙がっている。各学部で今まで取り組んできたことを整理し、発信し、共有するところから始める。校務部や学習指導部など学部を超えての活動を行う既存の組織を有効活用し、各学部での実践を提供しあい、学部の教育活動に反映させる。学習指導について、指導時間の確保や指導体制、環境の充実などを目指すとともに、校内研修会等を通じて教師としての専門性を高めていく。

(2) 学校と保護者との連携

個人面談は、時間を確保し、吟味した内容になるように計画の見直しを考えている。懇切丁寧な対応を心掛け、保護者の願い、意見、要望に耳を傾けるように教職員間で共通理解する。

P T A活動は保護者と教職員の協力で成り立っている。秋まつりなど教職員が参加して活動しているが、実際にアンケートを見ると、保護者の方からの教職員への評価が低く出ていたり、行動を指摘される面があったりしている。このことをすべての教職員で共通理解して今後の活動に参加したいと考える。

引き渡し訓練については、実際の訓練となるような取組が求められている。安全指導部や危機管理委員会を中心に話し合いを行って、次年度は教職員の理解が大事であることから、教職員を対象としたシミュレーション訓練を行うよう準備を進めているところである。

(3) 校内研究、校内研修の持ち方

校内研究に関わる項目で、勉強することができたという評価がある一方で、研究の進め方や取り組む時期、また校内研修の内容や時期の設定などについて改善を求める声も挙がっている。

今年度の校内研究は自立活動の実践を通して児童生徒個々のニーズに応じた指導法の追求について取り組んできた。研究日などでお互いに研修を積み、授業づくりを通して教師の専門性を高めていくことはとても有意義であった。今年度の取組をもとに、次年度は、「授業づくり」に特化した研修としての取組を考えている。内容の精選や授業を行う計画を担当部署を中心に、教職員全体の共通理解のもと進めていく。

(4) 通学バスに関すること

保護者の評価は昨年度同様低くなっている項目である。バスの運転の荒さを指摘する声や座席の配置や年間の予定表の配布を要望する声が挙がっていた。これまで同様に、総務部バス担当者を中心として、乗務員さんと連絡をこまめに取って、情報交換、共通理解を図る。また、担任、担当が受けた情報は、総務部員に速やかに連絡し、対処できるように、各学部で協力する。乗務員さん同士の引継ぎ、対応がしっかりとされるように、バス会社との連携もしっかりと行っていく。

(5) 地域連携に関すること

近隣の学校との交流活動や居住地校学習など、実際に各学部において交流活動が行われている。子供たちの楽しみにしている様子や相手校の子供たちの理解面での変容が見られたという交流の成果の報告も受けている。保護者の評価としてはやや低い評価となっている。理由としては、活動の様子についてあまり知られていないという反省がある。そこで、交流先の子供たちの感想や活動の様子などをお便りやホームページなどでもっと発信したい。また、ひだまり展などの地域で参加している作品展などに積極的に取り組んでいることも情報提供していきたい。